

報道関係者各位

養豚DXのEco-Pork、インパクトレポート2026を公開

～世界40兆円 養豚市場への挑戦。事業進捗やグローバル展開をアップデート～

株式会社Eco-Pork(所在地:東京都千代田区 代表:神林隆 以下、「当社」)は、2025年2月に公開したインパクトレポートをアップデートし、「インパクトレポート2026」として当社Webサイトで一般公開したことをお知らせいたします。なお本レポートは、IMPACTLAKE社と共同で作成しています。



◆ インパクトレポート2026の概要

当社は「データを活用した循環型豚肉経済圏の共創」をミッションに、「次世代に食肉文化をつなぐ」をビジョンとして掲げ、養豚生産者向けのDXソリューション提供を通じ、産業の持続可能性向上と、タンパク質危機・食料課題などの社会課題解決に取り組んでいます。

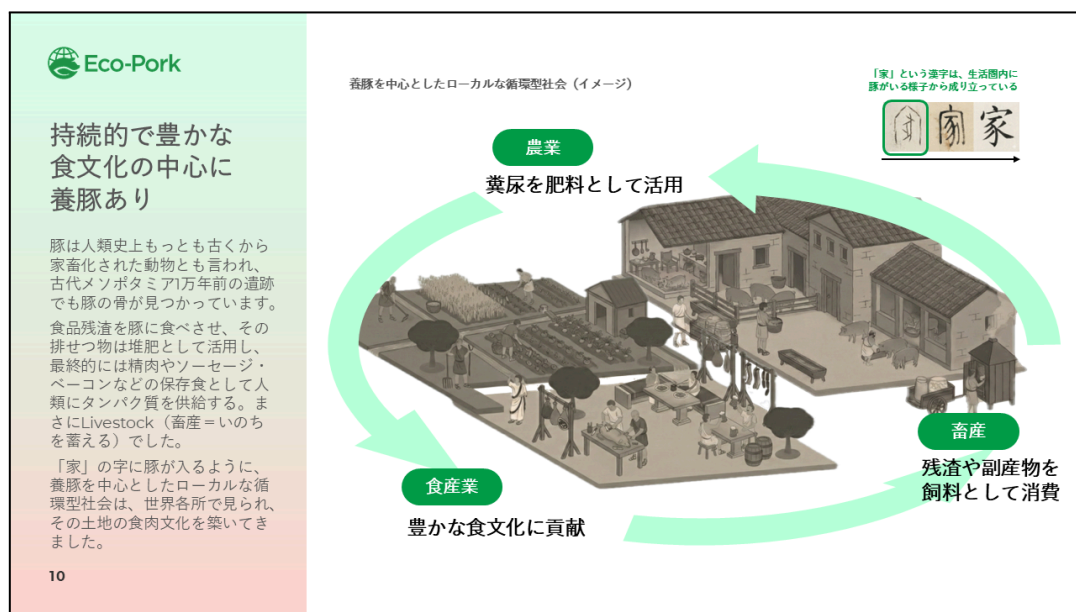
レポートは2024年2月の初公開以来、3度目の更新となります。ここまでの事業・インパクトの進捗報告もさることながら、より多様なステークホルダーが当社にご関心をいただいている現状を踏まえ、当社の世界観＝目指していく方向性についてご理解いただけるようなコンテンツとさせていただきます。

主なコンテンツ例：

- 養豚業が人類の歴史に果たしてきた役割 * 新コンテンツ
- Eco-Porkが目指す食肉文化の未来 * 新コンテンツ
- 人類の食を支えるタンパク質の需要と供給のバランスが崩れてしまう、いわゆる「タンパク質危機」の予測
- 畜産、とくに養豚の抱える社会課題に関する調査
- 養豚経営支援システム「Porker」による生産性改善
- カーボנקレジット「J-クレジット」制度を活用した養豚の環境負荷低減
- 畜産業のDXや養豚業の潮流 * 新コンテンツ

インパクトレポート掲載ページ

<https://www.eco-pork.com/report/7080/>



◆ 社会インパクト

「Porker」の国内シェアは約14.7%（2025年10月現在。母豚数換算）で、導入農家では初年度平均7%の生産性向上の実績があります。当社試算では、Porkerによる成績改善によって1年間で23.6万頭の豚が多く出荷され、その増産分にあたる枝肉1.3万トン相当の豚肉が日本国内に多く流通したことになります。これによってPorker導入養豚農家の売上は全体で年間79.3億円向上したと推定されます。

養豚を対象としたカーボנקレジットでは、J-クレジット方法論における試算で、参画農家平均13%のGHG排出量削減に繋がっています。また、自社実証農場では飼養効率11%改善というデータもあり、これらのソリューションによって環境負荷の低減が可能になります。

当社は2026年、従来の日本・米国・ウクライナに加え、欧州・ブラジル・アジアへと事業を拡大していくことで、世界のタンパク質危機の解決に向けた取り組みを加速してまいります。

IMPACTLAKE <https://impactlake.com/corp>

企業の社会的価値創出と持続的成長の実現を目指し、インパクト評価、開示、戦略的活用までフルサポートするインパクトマネジメントエージェント「impactlake™」および、インパクトマネジメントのためのオープンプラットフォームである「impactlake Platform」(<https://platform.impactlake.com/jp>)を提供・展開しています。

Eco-Pork <https://eco-pork.com/>

”次世代に食肉文化をつなぐ”を企業理念に掲げ、世界40兆円市場である養豚の、データによる持続可能化を目指しています。養豚の全てをデータで可視化する養豚経営支援システム「Porker」や豚頭数と体重を瞬時に計測するAIカメラ「ピッグデータステーション」を開発・販売しています。

経済産業省「J-Startup Impact(2023年度)」、農林水産省「令和2年度・令和3年度／令和4年度・令和5年度 スマート農業実証プロジェクト」「中小企業イノベーション創出推進事業(フェーズ3基金)第1回公募」、NEDO「ディープテック支援基金／ディープテック支援事業」、国連工業開発機関「ウクライナグリーン産業復興プロジェクト」などに選定・採択されています。

お問合せ先
株式会社Eco-Pork
info@eco-pork.com